

孤独の恵み

シリーズ～チェンジ～

2016/1/31

アブラハム一家のその後

- ▶ イサク, 40歳でリベカと結婚
 - ▶ アブラハムの甥ベトエルの娘
- ▶ イサク夫妻も20年間子どもが与えられない
 - ▶ 「イサクは、妻に子供ができなかったので、妻のために主に祈った。」25:21
- ▶ 与えられた子どもは男の子の双子！
 - ▶ 「先に出てきた子は赤くて、全身が毛皮の衣のようであったので、**エサウ**（「毛深い」あるいは「赤い」）と名付けた。その後で弟が出てきたが、その手がエサウのかかと（アケブ）をつかんでいたのので、**ヤコブ**と名付けた。」
25:25-26

創世記25章27～34節

二人の子供は成長して、エサウは巧みな狩人で野の人となったが、ヤコブは穏やかな人で天幕の周りで働くのを常とした。イサクはエサウを愛した。狩りの獲物が好物だったからである。しかし、リベカはヤコブを愛した。ある日のこと、ヤコブが煮物をしていると、エサウが疲れきって野原から帰って来た。エサウはヤコブに言った。「お願いだ、その赤いもの(アダム)、そこの赤いものを食べさせてほしい。わたしは疲れきっているんだ。」彼が名をエドムとも呼ばれたのはこのためである。ヤコブは言った。「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください。」「ああ、もう死にそうだ。長子の権利などどうでもよい」とエサウが答えるとヤコブは言った。「では、今すぐ誓ってください。」エサウは誓い、長子の権利をヤコブに譲ってしまった。ヤコブはエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えた。エサウは飲み食いしたあげく立ち、去って行った。こうしてエサウは、長子の権利を軽んじた。

ヤコブ,長子の権利を奪う

- ▶ アウトドアのエサウ,インドアのヤコブ
 - ▶ イサクはエサウを愛し,リベカはヤコブを愛した
- ▶ ヤコブは「長子の権利」を求めた
 - ▶ 長子は他の兄弟の2倍を相続した(申命記21:17)
- ▶ エサウは食欲に負けてあっさり「長子の権利」を手放した
 - ▶ 「長子の権利などどうでもよい」「長子の権利を軽んじた」
- ▶ ヤコブはずるがしこく,チャンスを逃さない
 - ▶ エソウは何かにつけて「長子の権利」を振りかざしていたのではないか?

イサク、「祝福」を受け継がせる

- ▶ イサクは父アブラハムと同様、主なる神から祝福の約束を受けていた

- ▶ その夜、主が現れて言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。わたしはあなたを祝福し、子孫を増やす／**わが僕アブラハムのゆえに。**」26:24

- ▶ エサウに祝福を与えようとする

- ▶ 「イサクは年をとり、目がかすんで見えなくなってきた。そこで上の息子のエサウを呼び寄せて、…『わたしの好きなおいしい料理を作り、ここへ持って来てほしい。死ぬ前にそれを食べて、**わたし自身の祝福をお前に与えたい。**』」27:1-4

リベカの策略

- ▶ リベカはヤコブに、父をだまして祝福してもらうようけしかける
 - ▶ 「わたしが、それでお父さんの好きなおいしい料理を作りますから、それをお父さんのところへ持って行きなさい。お父さんは召し上がって、亡くなる前にお前を祝福してください。」27:9-10
- ▶ リベカは躊躇するヤコブを説き伏せた
 - ▶ ヤコブは母リベカに言った。「でも、エサウ兄さんはとても毛深いのに、わたしの肌は滑らかです。お父さんがわたしに触れば、だましているのが分かります。そうしたら、わたしは祝福どころか、反対に呪いを受けてしまいます。」母は言った。「わたしの子よ。そのときにはお母さんがその呪いを引き受けます。」27:11-13

ヤコブ,祝福を受け継ぐ

▶ ヤコブ,変装して父のもとへ

- ▶ 「リベカは、家にしまっておいた上の息子エサウの晴れ着を取り出して、下の息子ヤコブに着せ、子山羊の毛皮を彼の腕や滑らかな首に巻きつけて…」27:15-16

▶ イサク,だまされる

- ▶ 「イサクは彼に触りながら言った。『声はヤコブの声だが、腕はエサウの腕だ。』イサクは、ヤコブの腕が兄エサウの腕のように毛深くなっていたので、見破ることができなかった。」27:22-23

▶ イサク,ヤコブを祝福する

- ▶ 「どうか、神が／天の露と地の産み出す豊かなもの／穀物とぶどう酒を／お前に与えてくださるように。多くの民がお前に仕え／多くの国民がお前にひれ伏す。お前は兄弟たちの主人となり／母の子らもお前にひれ伏す。お前を呪う者は呪われ／お前を祝福する者は／祝福されるように。」27:28-29

ヤコブに危険が迫る

▶ 祝福を奪われたエサウはヤコブを憎む

- ▶ 「エサウは、父がヤコブを祝福したことを根に持って、ヤコブを憎むようになった。そして、心の中で言った。『父の喪の日も遠くない。そのときがきたら、必ず弟のヤコブを殺してやる。』」27:41 > [カインとアベルの再現?](#)

▶ リベカ、ヤコブが家を出る口実を作る

- ▶ 「リベカはイサクに言った。『わたしは、ヘト人の娘たちのことで、生きてるのが嫌になりました。もしヤコブまでも、この土地の娘の中からあんなヘト人の娘をめとったら、わたしは生きていくかありません。』」27:46
 - ▶ 「彼女たちは、イサクとリベカにとって悩みの種となった。」26:35

ヤコブ、家を出る

ヤコブはベエル・シェバを立ってハランへ向かった。とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。ヤコブはその場所にあった石を一つ取って枕にして、その場所に横たわった。すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。見よ、主が傍らに立って言われた。「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」28:10-15

ヤコブ,主からの祝福の約束を受ける

- ▶ しばらく行った所でヤコブは一人寂しく野宿した
 - ▶ 「ヤコブはその場所にあった石を一つ取って枕にして、その場所に横たわった」
- ▶ 不思議な夢を見た
 - ▶ 「先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた」
- ▶ 主からの祝福の約束を聞く
 - ▶ 土地の所有・子孫の繁栄
- ▶ ヤコブ,記念碑を建てる
 - ▶ 「ヤコブは次の朝早く起きて、枕にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に油を注いで、その場所をベテル(神の家)と名付けた。」28:18-19

野宿の体験

▶ 家を出る前

- ▶ 欲深く、ずるがしこく、慎重
- ▶ 母リベカに愛され、守られていた

▶ 一人でほうり出された

- ▶ 「長子の権利」を奪い、父から「祝福」を受けたが、無一物同然で一人、家を出なければならなくなった

▶ 石の枕の体験

- ▶ 目に見えないが、天と地はつながっている
- ▶ 主なる神はどこにいても助けてくださる
- ▶ 主は共におられ、守り、見捨てない神である

孤独の恵み

▶ アブラハムとイサクのチェンジ

- ▶ 忍耐: 子どもが与えられるまで待つ(25年・20年)
- ▶ 主なる神には不可能はない。約束を実現される。

▶ ヤコブのチェンジ

- ▶ 環境の変化: 家から離れる
- ▶ 予想外の展開: 無一物同然
- ▶ 孤独: 誰も助けしてくれる人がいない
- ▶ 主なる神と個人的にむすびつく

▶ ヤコブの旅立ち

- ▶ 「ヤコブは次の朝早く起きて、枕にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に油を注いで、その場所をベテル(神の家)と名付けた。」28:18-19